

令和2年度第1回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（美術部会）

令和2年11月4日（水）
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後 1 時58分開会

大森文化施設担当課長：それでは定刻よりやや早いですけれども、皆様おそろいのようなので、会を始めさせていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和 2 年度第 1 回「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会の資料評価部会（美術部会）」を開催させていただきます。

私は東京都生活文化局の文化振興部文化施設担当課長の大森と申します。よろしくお願い申し上げます。

本日は司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には収集部会と評価部会がございまして、収集部会は江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会、また評価部会は江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別に委員の方々に御評価いただく会というふうになっております。

なお、本日午前中に収集部会を開催いたしまして、当部会でお諮りする案件につきましては収蔵するのが適切であるという旨の御意見をいただいておりますので御報告させていただきます。

本日の評価部会は都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

まず初めに、東京都江戸東京博物館副館長の小林から御挨拶を申し上げます。

小林副館長：本日はわざわざお越しいただきまして誠にありがとうございます。東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会評価部会ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度第 1 回の資料収蔵委員会となります。本評価部会では 2 点の資料の御評価をお願いすることにしております。どれも常設展あるいは展覧会での活用が適切であり、江戸東京博物館に必要不可欠な資料でございます。

御審議のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

大森文化施設担当課長：ありがとうございます。

それでは、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。

私の左の席のほうから時計回りで順に御紹介させていただきます。

黒田委員でございます。

田辺委員でございます。

内藤委員でございます。

秋田委員でございます。

田沢委員でございます。

続きまして、事務局職員のほうを御紹介させていただきます。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の飯塚でございます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これから議事に入りたいと思いますけれども、それに先立ちまして、当部会

の公開について申し上げます。

当部会は東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱第12の規定により原則公開となっております。そのため、委員皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて公開しております。

一方で、当部会における評価対象資料の価格評価に関する議事は、同要綱第12の第1項(1)の規定により非公開となっております。

なお、当部会の議事録は同要綱第12の第2項規定により資料収集決定後に公開を予定しております。公開に当たりましては事前に確認させていただきたいと考えておりますので、同要綱第12の第2項(1)により、委員個別の価格評価については非公開というふうになっております。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

まず、飯塚課長から本日御紹介いただく資料の説明をお願いいたします。

飯塚事業企画課長：説明の前にお手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず、一番上に会議次第がございます。

次に、A4の委員名簿がございます。

続いて、A4の「収蔵委員会設置要綱」が2枚ございます。

次に、A4で「令和2年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」が1枚ございます。

続いて、A3の「令和2年度第1回資料収蔵委員会資料（資料評価部会美術部会）」が2枚ございます。

最後に、同じくA3で「令和2年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）評価票」が1枚ございます。

なお、お配りした名簿の肩書などに誤りがございましたら、恐れ入りますが、後ほど事務局へ御連絡いただければと存じます。また、事前にお送りした資料につきましては、現時点では未公開の情報が含まれておりますため、会議終了後、回収させていただきたく存じます。

それでは、今回御評価いただく資料について御説明いたします。

A4判の「令和2年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」を御覧下さい。

まず、「1. 鯉図」でございます。葛飾北斎画、天保10年の作でございます。葛飾北斎（宝暦10年～嘉永2年）の子孫の家に伝来した水中を泳ぐ鯉の画軸です。「八十老叢筆」の落款と「かつしか」と読まれ、80歳から88歳頃まで用いたと見られる白文方印があります。主題及び藻や波紋を通して見える水中の表現は、「画狂老人叢筆 齢八十」の落款がある岡田美術館所蔵の「遊鯉図」（天保10年）によく似ていますが、「八十老叢筆」とした作例は現在のところ確認されていません。

本図を収める箱表には「葛飾北斎画水中之鯉」、蓋裏には曾祖父の葛飾北斎が、母多智

の白井家に嫁入りに当たり贈った旨の伝来が、曾孫の白井家13代・孝義（嘉永4年～昭和3年）により記されています。多智（天保2年～明治19年）は北斎の次男で御家人の加瀬家の養子となった加瀬崎十郎の長女で、北斎の孫娘に当たります。孝義は飯島虚心の『葛飾北斎伝』（明治26年）執筆の取材に応じ、先祖北斎や北斎の娘応為などに関する伝聞も伝えています。

本図は近年存在が明らかになったもので、所蔵者によると、所蔵者の家は軍人や官僚を輩出する謹厳な家系であったこともあり、浮世絵師の子孫であるとの公言がはばかれたといえます。こうしたこともあり、長らく同家に秘蔵されていた本図は、その来歴と北斎にまつわる家伝も含めた価値を有しており、今後の北斎研究の資料としても貴重です。

当館は北斎の錦絵や版本は所蔵していますが、肉筆画は「万歳図」1点のみであることから、本作品を収蔵できればコレクションの充実を図ることができます。また今後、常設展示「江戸の美」や「町の暮らし」コーナー、企画展、特別展など様々な展示で活用が見込まれます。

続きまして、「2. 上野浅草図屏風」、18世紀前期のものと推測されます。

右隻には浅草寺と夏の隅田川を、左隻には春の寛永寺と不忍池を描いた六曲一双の屏風です。右隻には隅田川を水平に描き、画面上部の東岸には回向院、牛嶋神社、木母寺までを、下部の西岸には駒形堂から浅草寺、待乳山聖天、今戸橋を描いています。左隻には寛永寺の黒門前から大仏、本坊、東照宮五重塔までを描き、下方に不忍池弁天堂を配しています。それぞれの寺院を俯瞰的に捉えながら門前町を細やかな風俗描写で捉えています。

寛永寺と浅草寺という江戸の二大聖地で行楽地を対にした、いわゆる「上野の花見・隅田川の船遊び」の主題は18世紀初頭から前期にかけて流行し、菱川派や宮川派といった浮世絵の流派やそれに属さない町絵師らによって数多く描かれました。本作はその系統に位置づけられるものですが、落款・印章を欠き、また人物の描写などからも絵師あるいは流派を特定することは難しいものです。

景観年代は上限が明暦の大火後に架橋された両国橋の寛文元年、下限は寛永寺清水観音堂が現在地に移る以前の摺鉢山にあった元禄7年と考えられます。

寺院と地理的な位置関係を丁寧に描写していて、寛永寺の根本中堂や文殊楼が造営される以前の伽藍で、黒門前の三橋もまだ1つの橋であるなど、元禄11年に幕府が寛永寺の威容を整備する以前の景観が描かれています。また、画中には江戸時代特有の聖堂や建物が詳細に描かれ、隅田川付近に見られた瓦焼きの様子や浅草寺門前の絵師の見世も見出すことができます。こうした作例は少なく都市風俗の研究資料としても重要です。

左隻第六扇左上や右隻第二扇手前をはじめ、ところどころに補彩と思われる部分が見受けられますが、全体を通して見どころが多く描かれており、常設展示「江戸城と町割り」「町の暮らし」をはじめとする様々な展示での活用とともに、教育普及での活用も見込まれます。

説明は以上でございます。

大森文化施設担当課長：ありがとうございます。

これまでのところで何か御質問、御意見ございますでしょうか。

それでは、次に評価方法について御説明させていただきます。

まず、お手元の評価票に金額を記載し署名していただきます。

評価額の最高額と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額といたします。

この点について何か御質問ございますでしょうか。

それでは特にございませんでしたら、早速資料の実見をしていただきたいと思いますので、お手数をかけますが移動をお願いしたいと思います。また、資料に関する個別の御質問については会場のほうで学芸員にお尋ねいただければと思いますのでよろしくお願いたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

大森文化施設担当課長：それでは、議事を再開させていただきます。

資料を御覧になりまして何か御意見、御質問ございましたでしょうか。

それでは、特に御意見等ございませんようでしたら、お手元の評価票に価格評価と御署名をお願いいたします。

なお、ナンバー1は消費税込みにはなりません、ナンバー2のみが消費税込みということになっております。よろしくお願いたします。

(評価票記入)

大森文化施設担当課長：なお、御記入がお済みの方は係の者が確認させていただきますので、お声かけいただきたいと思います。確認が終わりましたら御退席いただいて問題ございませんので、本日はありがとうございます。

午後2時43分閉会

以上